

■伊藤音次郎 日本の民間航空のパイオニア。研究所を設立し、多くのパイロットを育て、国産機の開発にも努めた。

いとうおとじろう

足尾鉦毒始・1891＝ 二宮忠八が模型飛行機を成功させた年、大阪府西成郡今宮村（現在の大阪市浪速区恵美須）で生まれる。

ビアノ国産化・1900＝ 9歳：

小学校時代から絵の才能を發揮、

日比谷公園・1903＝12歳：この年、ライト兄弟が世界初の友人動力飛行に成功。

日露戦争始・1904＝13歳：恵美須尋常高等小学校を卒業し、質店に奉公。

日露戦争終・1905＝14歳：余白に繊細美麗な挿絵もある日記をつけ始める。絵が上手いと、店主から新聞広告用の美人画下絵を描き、評判になって永く掲載される。店主の娘に初恋するも、辞めて、実家の手伝いや絵の修業、

満鉄発足・・・1906＝15歳：竹島新三郎の紹介で、大阪の佐渡島伊兵衛商店（銅鉄商）に奉公にあがる。

韓国反日暴動1907＝16歳：佐渡島家へ婿入りした英禄との出会い。竹島と佐渡島英禄には、後援者として、末永く世話になる。

アヲキ創刊・1908＝17歳：道頓堀朝日座でライト兄弟飛行の活動写真を観るや、飛行家を志すようになり、

伊藤博文暗殺1909＝18歳：英禄に教わったり、本を貸して貰い、勉学、読書に励む。スマイルスの「西国立志編」に感銘して、居ても立ってもいられず、模型飛行機を製作するうち、新聞記事で目にした「飛行器発明者奈良原三次に手紙し、まず機械学を学ぶよう諭され、開校したばかりの市立大阪工業学校夜学に入学するが、

韓国併合・・・1910＝19歳：途中でやめ、飛行機研究に専念すべく、店を辞め、奈良原式1号機試験飛揚の新聞記事を読み、直ちに上京するも、多忙な奈良原に会えず。代々木練兵場へ日参するうち、徳川大尉の日本初飛行を間近で目撃、

大逆事件判決1911＝20歳：ようやく、「奈良原三次の東京飛行機製作所の無給助手となり、

明治天皇没・1912＝21歳：徴兵で短期入営後、奈良原が新設の東洋飛行商会で指導を受け、「稲毛の日本初の干潟飛行場に移転した奈良原飛行団で初めて操縦訓練、白戸操縦士の助手として、地方巡回飛行に参加、

大正政変・・・1913＝22歳：奈良原が男爵家の事情等で引退し飛行団は解散。実家に帰り、白戸操縦士の手伝いで、度々、稲毛に。

第一次大戦始1914＝23歳：奈良原へは失望・不信。2年前の地方巡回飛行で遭った山縣豊太郎が初の門下も、先行きに思い悩み、

21ヶ条要求・1915＝24歳：豊太郎の叔父鳥飼繁三郎所有の*単号が稲毛に到着、伊藤飛行機研究所開設して、飛行練習を始め、白戸の依頼で初設計製作（白戸式旭号）、白戸の試飛行も成功。鳥飼よりグレゴア発動機を購入、新機（恵美1型）を設計製作、白戸に試飛行を依頼し成功の一方、白戸計画の飛行学校に参加、練習生募集に申込殺到し、

民本主義・・・1916＝25歳：恵美号の帝都訪問飛行に日本中が熱狂。白戸の依頼で、民間初の水上機（白戸王号）を設計製作、試飛行。恵美号で7ヶ月間にわたる全国巡回飛行（航空宣会）を実施し、巡回飛行記「空飛ぶ旅路（國民飛行）」執筆。2棟の格納庫を建てる。上総屋三女きちと結婚するなど、一気に飛躍。

ロシア革命・1917＝26歳：民間航空初の夜間離着陸飛行に成功。山縣が操縦練習生第1号として卒業し、入門者も多くなる。恵美2、3型を設計製作。皇族で初めて海軍航空隊に所属し、「空の宮様」山階宮武彦が来場（津田沼移転後も度々）。故郷大阪訪問飛行実施、東京で広告ビラ撒きの飛行が話題になり、以後10数年、ビラ撒きが重要な収入源。台風の高潮で稲毛飛行場は壊滅も、恵美2、3型は大阪にあって無事。家族、助手ら一同で大阪に移住。

本格政党内閣1918＝27歳：恵美2、3型を売却するなどして、苦境を乗り越え、津田沼に研究所を再建し、一同で移住。山縣の成長に伴って経営に重心を移し飛行回数は漸減し、設計製作も門下生に任せるようになる。

ベルリン条約・1919＝28歳：長女誕生もスペイン風邪で死去。年頭に事業家宣言。山縣が、東京奠都50周年記念飛行大会で、烈風の中、連続2回宙返り公開、非公式ながら天皇陛下のお目にとまり。初めて女性兵頭精が入門。

大暴落・・・1920＝29歳：洲崎での、第1回懸賞飛行競技大会で伊藤門下1・2位独占。東京～大阪周回無着陸懸賞飛行競技に距離と時間の新記録で優勝するなど、活躍続けた山縣が、飛行練習中に墜落し殉職。

原敬首相暗殺1921＝30歳：写真好きが高じ、研究所に空中写真部を創設、航空写真撮影・販売の先駆けとなる。伊藤飛行機研究所を株式会社にするが、以後続く航空不況の中、中古軍用機や部品を払い下げてもらい改修する日々が続く。

水平社結成・1922＝31歳：兵頭精が試験に合格し女性飛行士第1号になるも、スキヤンダル記事で去る。「英国皇太子を空中より歓迎、写真に収め皇太子殿下に献上。平和博覧会で、伊藤式スポーツ用小型軽飛行機が銀牌も、資金不足で開発断念。翌年にかけて、航空局より陸軍戦闘機を受注、良好な成績で納入。

関東大震災・1923＝32歳：資金繰り苦しく支援得られずも、震災被害はなく、白戸の引退、飛行学校閉鎖で、練習生を引き受ける。

護憲三派圧勝1924＝33歳：陸海軍機の安価な払い下げによる「民間航空不況で、株式会社を解散、個人経営の伊藤飛行機製作所とし、

治安維持法・1925＝34歳：飛行部門を分離し、川辺佐見と音次郎と協同経営の東亜飛行専門学校を設立、翌々年、川辺へ譲渡。

円本時代始・1926＝35歳：軍への足がかりに所沢の航空社を買収、分工場として陸軍機の修理。「日本軽飛行機倶楽部趣意書」作成。

金融恐慌・・・1927＝36歳：*門人稲垣に津田沼を任せ、銀座に東京事務所を設立するも、葛飾に移転。稲垣が啗血し、航空局の差し金で、新設会社に、仕事を横取りされ、多数のベテラン職人も引き抜かれて衝撃、どん底状態に。

共産党事件・1928＝37歳：*稲垣父より辞表が送られ、自宅、家財、飛行機まで差し押さえ、航空タクシーや塩田飛行場計画も失敗、

世界恐慌・・・1929＝38歳：*津田沼に戻り、軽飛行機普及を計るべく、日本軽飛行機倶楽部を創設し、経済の見通しが立つなか、奈良原が突然現れ、自ら考案の滑空機の試作を依頼、以降、奈良原は足繁く訪れる。

海軍軍縮条約1930＝39歳：*磯部鉄吉製作の滑空機の修理を依頼されたのを契機に、提携して、グライダーの製作を始める。。

満州事変・・・1931＝40歳：日本軽飛行機倶楽部の初役員会で、奈良原が会長に推される。朝鮮で二宮忠八合理飛行機発祥之地記念碑除幕式、二宮より報告状。巖谷小波に、軽飛行機倶楽部歌歌詞の添削依頼。ネット曳航広告飛行を考案し、以降、広告代理店を通じて多くの依頼が舞い込む。奈良原のヘリコプターは断念に至る。

国際連盟脱退1933＝42歳：軽飛行機倶楽部の上仲鈴子、女性初の大阪～東京間無着陸飛行成功（3時間42分）。

帝人疑獄事件1934＝43歳：ついに借金すべて返済。

芥川直木賞始1935＝44歳：江戸川飛行場（河川敷）の開設も許可され、東京帆走飛行研究会を設立。

二二六事件・1936＝45歳：長男が練習生機で墜落死。航空賞が制定され、純民間受賞者は伊藤飛行機研究所の出身者が独占。

日中戦争始・1937＝46歳：（企業内学校）伊藤飛行機青年学校設置認可。出資を得て、株式会社伊藤飛行機創立。

健保+総動員 1938＝47歳：盟友で義兄弟の大口豊吉、兄弟子でライバルの白戸榮之助、山縣殉職以来後進の育成を続けてきた安岡駒好相次ぎ死去。航空局の指示により、5社で日本滑空機工業組合を設立し理事長。

大政翼賛会・1940＝49歳：東京五輪グライダー競技国際基準機オリンピアマイゼ製作完成・試飛行。帝國飛行協会より民間航空功労者として表彰。工場敷地内に、津田沼航空神社を創建し、研究所関係殉難者を合祀。

日米開戦・・・1941＝50歳：民間の飛行機操縦練習打ち切りで、倶楽部は自然消滅。飛行機、軽飛行機含め卒業生151名を教える。

・・・1942＝51歳：夫婦で、チブス罹患し、長期同室入院。伊藤飛行機も解散し、*舟崎由之の航空機材工業に吸収合併、本格的な軍需工場日本航空機工業（株）として発展していくなか、常務として、松戸工場の建設運営に注力。

年金+総武装 1944＝53歳：師奈良原三次逝去。

敗戦・・・1945＝54歳：*津田沼製作所長に就任し、海軍の練習機を製作完納したとき終戦、直後、全ての設計図等関係書類を自宅庭で焼却して、航空界を引退。千葉県より竹林の払い下げを受け、研究所の7家族と共に、印旛郡に入植、以後、その開墾に努め、恵美開拓農業協同組合を設立、恵美農場として発展していく。

独立回復・・・1951＝60歳：

テレビ放送始・1953＝62歳：航空神社を入植地に遷座、地元の信仰厚く、東峰（峯）神社となる。

自衛隊発足・1954＝63歳：

安保闘争・・・1960＝69歳：

TV宇宙中継始1963＝72歳：妻きち死去。

東京カンピョク 1964＝73歳：FAI（国際航空連盟）より、ポール・ティサンディエ賞授与される。

いざなぎ景気1966＝75歳：恵美農場が、成田空港B滑走路中央に位置することが判明。NHKテレビ「私の秘密」出演。

美濃部都知事1967＝76歳：この前後数年、長い飛行家人生を彩った膨大な写真の整理をし、思い出をまとめる。空港反対政党の日本社会党に対し毎日新聞の投書欄に痛烈な質問。航空人生を振り返る「私の人生」執筆。

震ヶ関ビル・1968＝77歳：用地売却契約第一号グループとして、空港公園の用地買収に応じる。成田より、元伊藤飛行機研究所滑走路跡の埋立地習志野市袖ヶ浦に、末子一家と共に移住。航空神社御神体の航空事故英霊者名木札も遷す。この頃、空港賛成の立場から何種類ものチラシを作成。

トルコショック・・・1971＝80歳：重い病気を患って、稲毛海岸に、民間航空発祥之地記念碑建立に尽力し実現。平木國夫による、音次郎の伝記小説「空気の階段を登れ」刊行まもなく、没した。